

# 平成23年第2回まちづくりトーク

## 会 議 録

「地域力」でまちを元気に 私のまち再発見！ in 沼間小学校区  
～沼間小学校区の実践から学ぶ～

2011年（平成23年）6月25日（土）

10:00～12:00

沼間公民館

【司会（福本市民協働課長）】 皆さん、こんにちは。時間になりましたので、始めさせていただきます。本日は、ご多忙のところをお集まりいただきましてありがとうございます。私は、司会進行を務めます市民協働課の福本と申します。よろしくお願いいたします。

今日のテーマなんですけども、「地域力」でまちを元気に 私のまち再発見！ in 沼間小学校区」といったことです。小坪、あと久木といったことで、地区版のまちづくりトークを今のところ続けているんですけども、その第3弾ということでもって沼間小学校区で開催する運びになりました。また、今日は自治会・町内会の役員の方にもご案内を差し上げておりまして、数多くの皆さんにお越しいただいております。

最近、孤独死の問題ですとか、あるいは子育ての孤立化といったような問題に加えまして、東日本大震災の影響もありまして、今改めてコミュニティーの必要性が問われています。人と人がつながることの基盤の一つとして、自治会・町内会といったものがこれまで以上に役割が大きくなっていくことを期待されております。地域の皆さんによる具体的な活動がコミュニティーを育てていくものだというふうに認識をしているところです。こういった観点から、沼間小学校区の地域の取り組みを学び、活発な意見交換を行いたいと考えているところです。

本日は2時間弱の予定となっております。前半は、住民の皆さんのほうから活動のご報告をいただきまして、その後に簡単なワークショップ、そして市長の進行による意見交換といったことを予定しています。2時間の予定なんですけども、休憩は設けてございませんので、ご自分のペースでトイレ休憩等をおとりになっていただけたらと思います。

あと、先ほどもご案内したんですけども、今前に出てます名刺ですね、これ、後ほど皆さんでぜひ名刺交換をしていただきたいというふうにご用意したものですので、書ける範囲で結構ですので、時間を見つけてご記入いただけたらと思います。

では、開始に当たりまして市長からごあいさつを申し上げます。

【平井市長】 皆さん、おはようございます。逗子市長の平井竜一です。今日は暑いんですけども、このように多くの方にお集まりをいただきましてありがとうございます。今、司会のほうからご案内のように、地域版のトーク第3弾ということで沼間地域、先月沼間地域の小学校区の連合組織が立ち上がりまして、今、大変沼間が熱く燃え上がってます。ぜひその沼間の皆さんとね、いろんな活動の状況を共有して、今日は全市の自治会の方にもご案内しておりますので、皆さんでいい議論のもとにですね、もっともっとこの沼間の地域が活発になっていくことを願って私のごあいさついたします。本日はよろしくお願いいたします。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 本日は副市長も出席しております。紹介します。小田副市長です。

【小田副市長】 小田です。よろしくお願いいたします。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 では、これから、まず活動報告といったことで始めたいと思います。報告の予定は、お配りしました資料一覧のとおりとなっております。市長の報告も加えて10項目ということで、非常にボリュームたくさんですので、残念ながら一つ一つの時間が5分程度といったことで限られてしまっております。申しわけないんですけども、進行のほうにご協力をよろしくお願いいたしますと思います。進行の都合上、途中でベルを鳴らします。ベルが鳴ったらもうそろそろ終わりなんだなといったことでもってご協力をいただけたらなと思います。

では、まず初めの報告です。沼間小学校地区連合会（仮称）の目指すものといったことで、同会発起人代表の永瀬様よろしくお願いいたします。

【永瀬】 ただいまご紹介にあずかりました沼間小学校地域連合会発起人代表の一員であります沼間3丁目自治会会長を賜っております永瀬と申します。今年5月28日、沼間小学校地域連合会を設立して間もないのですが、「沼間小学校地域連合会の目標とするもの」という命題を受けまして発表したいと思いますが、色々あるものでございますが、その一端をお話しさせていただきます。

最初に、なぜ連合会を設立したのかといういきさつをお話することにより、その答えとなると思います。昨年秋でありましたが、沼間3丁目自治会の役員会で、沼間全体として色々な活動をしないと、個々の自治会・町内会・管理組合等が頑張っ自分たちの地域の諸般の問題等を解決しても、今の世の中では、各单位自治会では単位が小さく、色々な要望が行政に届かなく、また小さな単位の要望ではなかなか行政に取り上げてもらえないという悩みがあり、その上、沼間1丁目と3丁目の間の急斜面の開発防止等の自治会内では解決できない問題点も発生してきました。これらの問題を解決するには、沼間全体で対処するのがよいのではないかという要望が出ました。このような内容を逗子の各ところで活躍されております東町内会会長であります橋本会長に提案したところ、橋本会長は既に連合構想を計画しており、ぜひ実現に協力してくれとのことで、東町内会と沼間3丁目自治会の副会長を交えて計画を推進することになり、昨年10月、12月まで色々な問題点、連合のあり方を検討してまいりました。

ちょうど年明け早々に市長の所信表明が発表され、その内容は、1つ、新たな市民自治システムの構築と長期ビジョンの策定。2つ、行財政改革の一層の推進。3つ、ゼロ・ウェイスト社会

への挑戦であり、私たちが連合設立に当たって色々議論してきたものと合致するところも多く、意を強くいたしました。行政においても、少子高齢化と人口減少、経済の長期低迷、政治の混迷などで、地方自治体も大変とのこと、厳しい財政状況の下での市の運営と、我々が今まで逗子市の優れた市政におんぶに抱っここの期待は、今までどおりなされないと考えました。よって、市長も現在までの行政のやり方を地域の自治を前面に出し、地域自治の推進を企てると述べております。その行政の方向に対して我々連合も、地域自治の推進、地域でできることは地域で、補助金制度の個々より全体としての有効活用、地域に役立つ補助金のあり方、地域のコミュニケーションを高め隣近所を支え合える関係づくり等々、各世帯が行政にかかわり合う連合を目指したいと思っております。

現状、沼間には17の自治会・町内会・管理組合があります。現状、沼間の連合は、個々の自治会・町内会等の活動は活発に行っておりますが、連合は、この個々の連合会を妨げるようなことをしないでおこうと考えております。沼間全体として解決すべきこと、行政に物申すのみではなく、行政として効率的に運用できるよう、連合会は協力して行政からも有意義な連合として認識していただくことを目指したいと思っております。また、逗子市内にもう既に小坪、久木、池子連合がおのおの立派な活動をしておられますので、先輩連合会の指導を受けていきたいと思っております。なお、逗子市と近接している横須賀市、鎌倉市との自治の取りまとめ等を調べてまいりましたが、逗子市は行政と自治の関係はちょっと遅れているように感じます。他市の良いところは見習い、より良い連合会になるよう目指したいと思っております。

要は、沼間小学校地域連合会の目指すところは、くどいようでございますが、各世帯の唯一の集まりであります自治会・町内会・管理組合等が一体となって、沼間全体として解決すべき問題、沼間全体の横のつながりの強化、沼間全体としての効率的財政の行政への貢献等々を目指し、地域自治の確立を図っていきたいと考えております。沼間地域における任意団体のご協力も得て、現在にふさわしい沼間となるよう頑張っていきたいです。

以上、沼間小学校地域連合会の目指す一端を述べさせていただきました。どうもありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 永瀬さん、どうもありがとうございました。すいません、ちょっと時間が短くて申しわけないんですけども。簡単な取り組みではないと思いますけども、地元の方の皆さんの力が集まれば決して不可能なことではないということだと思います。本当にどうもありがとうございました。

では、2つ目の報告に移ります。地域のコミュニケーションを活発にするふれあい活動圏モデル事業、あいさつ運動と名刺大作戦の展開、こちらにつきましては、同じく連合会発起人代表の橋本様にお願いいたします。

【橋本】 今、紹介にあずかりました東町内会の、今、もう8年ぐらいかな、やっている会長でもあります橋本と申します。よろしくお願いします。

題名のように、地域のコミュニケーションを活発にしようということで、我々自分の町内会では、色々パンフレット、それから名刺などに「コミュニケーション」という言葉を使っています。これは何かというと、皆さんとのふれあい、いずれにしましてもね、今、通信、ネットの社会で、うちで座ってパソコンに向かってキーボードを打っていれば大体、感性的な会話はできちゃうと。それはそれで結構なことですけど、本来人間というのは、お互いに顔を、目を見てね、お話しするというのが基本じゃないかなと思ってます。そんなことで、その中に一つのあいさつ運動、そういうことをですね、中に入れてやってみたらどうかなと思ってました。

数年前です、小学校の新任で来られた校長先生と以前からちょっと懇意にしていたものですから、いろんな話の中で、子どもたちのあいさつをちょっとお願いできないかなという話をしたことがあります。結果としてですね、校長先生に何をやっていただいたかということ、自分が校長に就任してから、朝生徒が入ってくる校門の前に立ちまして、「おはよう」と一言みんなに声をかけて、自分が校長の期間を、それで過ごしていただいたと。非常にこれは校長先生には感謝しています。その先生の名前は倉地さん、今は久里浜のほうで学校に行ってるそうですけれど、非常にね、うれしいことで、この内容は我々も子どもたちとのあいさつ、ですから今、沼間で歩いていると、子どもたちが結構大人に向かって「こんにちは」って声をかけている子もいます。こういうことをね、広めていく、これが一つのやっぱり大きなコミュニケーションかなと思ってます。

先ほど、永瀬さんのほうで連合会の話がありました。我々のつくっている連合会では、タイトルにもありますように「私たちのまちの再発見！ in 沼間小学校区」になってます。ですから、沼間というだけじゃなくて、避難所運営なんかでもそうですけれど、地域として、桜山3丁目、4丁目、5丁目、それと沼間1丁目から6丁目の皆さんが該当する連合会でもあるし、今日のまちづくりトークでもあるということがあります。ですから、今までの連合会のほうはとりあえず沼間地域の人、1丁目から6丁目までの人にお声をかけて結成しました。これから桜山の方々にも時間をかけて、一緒になってやっていこうよという話をしていこうと思います。いずれにしましてもね、そういうような形で、連合会は一つのいろんな意味の起爆剤になってみたいなど。な

かなか町内会だけでやってるとスケールが小さいものですからね、なかなか中央部、今日は特に市役所の方に沼間の人たちの声の通りが非常によい。これはいつも市の皆さんにも言うんですけども、ちょっと沼間の話を聞いてくれないかな、沼間をもうちょっと取り上げてくれないかなという、そういうことも多少連合会を作ったときに自分の頭の中に描いていたものです。

そのような形で、今回、連合会と町内会が二人三脚で物事を進めていきたいと。特にこれから色々行政の方の地域分権をね、地域分担というものが、これは逗子市じゃなくて全国区で必ず出てくる話です。この出てきた時にね、やはり今、先ほど言いましたように、逗子は地域の活動、要するに地域の皆さん、やりたくないけどしょうがねえなってやってるのが今、町内会・自治会の皆さん、そういう人たちがもっとね、しょうがねえけどやらなきゃなっていう地域活動になるようなこと、これは横須賀とか、あとは鎌倉なんかはみんなそういう形でやってます。ですから、我々も少し地域の要するに活動に関して、もっともっとやってもいいのかなと思ってます。

幸い、避難所運営で、去年の中学校でやった時の内容なんですが、生徒さんたちが避難所運営の参加をしてくれました。これはね、学校から強制されたわけでも何でもありません。皆さんが自発的に手を挙げてくれました。約30名、当日25~26名になりましたけれど、その子どもたちがね、手伝ってくれてるんですよ。それに気をよくして、今年もねっていう話をちらっと数カ月前にしましたら、昨日避難所運営会をやりました。その時に出てきた話が、今年は何名必要ですかって学校から来たんですね。非常にいいことだなと思って。まず中学生が我々の活動に参加してもらおうということ。先ほどのあいさつの中でね、どういうことをやろうかということの一つのキャッチフレーズをつくりたいなと思ってました。言っていることは、「おはよう」「こんにちは」、それから夕方になったら「お帰り」かな、この言葉を今、小学校の子どもたちもやってますけれど、これからこの話を大人の人たちに広めていくのがここに書かれてますふれあい活動、県の要するにモデル事業の一つ、これは市の方と色々な形でやって、今バックグラウンドに色々出てます。これが今日皆さんに先ほどお渡ししたカードがどういう形で使われるか、これは地域名刺という名前をとりあえずつけていってやってますのでね、その話をちょっと行政の方から説明してもらおうと思いますので、私の話はここで一旦とめます。よろしく願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

【細野】 では、おはようございます。画面を見て一緒に。今日お渡ししてあるのは、後で名刺交換ということでやる名刺をお渡ししてあります。これは、今日以後それぞれの形でお渡ししたいと思っています。「あいさつでつながるご近所、地域力」こういうスローガンのもとでマイ

タウン逗子、ただの逗子ではありません。私たちの住んでる、愛してる逗子をお互いにあいさつ  
でつないでいこうという趣旨です。昨日より今日、今日より明日というイメージで、ご自分があ  
いさつをどういう方にしているか、とらえてください。

今日、日曜日からもう始めるといったら2通りあります。1つは、今日何人にあいさつできる  
かな、自分でちょっと意識する。もし5人に今日はできそうだなと思えば「5」と今日の  
数字、日曜日と入れたらどうでしょうか。そして、夕方終わらして、寝る前にでも、ご飯を食  
べるとき、今日は誰と会ったかな、ちょっと思い起こして、ああ、今日はいいあいさつができた  
な、いい一日だったな、振りかえる、そんなチャンスになれたらいいと思います。よかったら矢  
印上向き。まあまあ自分としてはだったな、横向き。ちょっと今日はいまいちいいあいさつがで  
きなかったな、こう下向きに書いたらどうでしょうか。それで始めてずっといくという方法もあり  
ますし、それを1週間5人と決めたら、5の単位で上向きか下向きか同じかというふうを考える  
やり方もあります。それから、今日朝起きましたら、6時ぐらいに、今日は10人ぐらいに会いそ  
うだな、10。毎日数字を入れて上向き、下向きというのをご自身で夜判断するというのはいかが  
でしょうか。その辺については提案ですので、皆さんでさらにこうするといいぞ、こういうほう  
がいいよというのはどうでしょうか。

方法ですけど、これはちょっとアイデアですけども、このカード、ラジオ体操の前に使うのも  
いいし、あるいはちょっと玄関でも、どこか床の間でも、ご飯を食べるところに置いて、こ  
ういう箱をですね、角を切って置いて、今日は自分にご褒美ってここに100円玉を入れると  
か、500玉を入れるとか、10円。これをどうするんだといったら、後で自分でおいしいものを食  
べるのもあるし、奥さんと食べるのもあるし、お孫さんにちょっと物を買ってやるというのでこ  
れを使ってもいいし、そういうようなこともちょっと貯金箱じゃないけれど、自分に励まして長  
く続けていく。そういうアイデアもあるかななんて言いました。これは、ちなみにJR逗子駅の  
横で売っておりますので。あいさつの支援になります。以上です。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 ありがとうございます。あいさつ手帳も地域の名刺も、これ  
から実はモデル事業としてやっていきたいというところで、まだこれが決定したものではありま  
せん。使い方、様式もこれから沼間地区の皆さんを中心に考えていきたいなと思っているところ  
です。ありがとうございます。

続きまして3つ目の発表ということですが。安心生活創造事業の取り組みに関しまして、お互い  
さまグリーンヒル事務局から青木様、よろしくお願ひします。

【菅波】 おはようございます。グリーンヒル自治会長の菅波といたします。グリーンヒルのボランティアグループで見守りサポーターと生活支援サポーターが3月の20日付でできております。その立ち上げから全部やっている青木代表にこれから趣旨を説明させていただきます。青木さん、よろしくをお願いします。

【青木】 ご紹介にあずかりましたグリーンヒルの青木といたします。よろしくをお願いします。皆様の手元にですね、前から3枚か4枚めくりましたら、「お互いさまのすすめ」というチラシが入っていると思います。実は、この安心生活創造事業というのを聞いておられる方もおるかと思えますけれども、言ってみれば国がひとり暮らしの人とか、ふたり暮らしの高齢者の人、そういった人たちを地域でもって見守ろうということで始めた事業なんです。それを神奈川県では逗子市と横浜市がテスト的にやるということになりまして、2年前から逗子市が始めたわけです。全町内でできませんので、逗子は3つに分けてね、小坪地区と山の根地区と、それから池子地区、この3つをテストとしてやっております。その結果が…結果というのかな、うまくだんだん軌道に乗ってきましたところを、私どももそれを聞きましてやり始めたというのが今までの経過なんです。そういうことですので、これからグリーンヒルの、どういうふうに行ったか時系列的に、ちょっと簡単に説明したいと思います。

それでは、そこに出てきましたとおり、団地ができて30年たちます。世帯は435戸、中は、AからLと12のグループに区画されておりまして、年齢構成も、これは去年の1月の統計なんですけれども、60歳以上の方が約39.7%ですね。もう10年もしますと皆これ70歳以上になりますから、4割ぐらいの方がかなりの高齢になると思います。それから、自治会、これもありまして、役員が27名おりますが、これはちょっとうちの自治会特有かもしれませんが、任期1年で全員交代ということになっておりまして、なかなか全員交代しますから、何ていうんですかね、長い期間の事業というのが難しいような感じがいたします。それから、幸いですね、一番最後ですけども、クリーンボランティアといたしましてね、清掃、草刈りとか何か清掃するボランティアグループがありまして、これは2年前から常時20~30名ぐらい集まって月一遍やっていると、こういうような実態でございます。

次のページです。昨年8月に社協の協議に行きまして、先行の3地区の報告を聞きまして、我が団地もね、そういうことで必要なと思ひまして、そこに書いてあります8名の準備委員会でもって、これは当然物まねです。そういう人たちに集まってもらって、準備委員会をまず立ち上げました。



次のページですね。そこで話された主な内容は、自治会との関係ですね。先ほど言いましたように、自治会役員は1年で替わりますし、お互いさまグリーンヒルは1年でやめるわけにもいきませんので、その辺色々協定を結びまして、いつの代になっても自治会の方と一緒にやっていくんだよというようなことで提携を結びまして、色々な仕事の内容とか役割分担を決めまして、大体骨子は、次のページへ行きまして、このような内容です。各ブロックにひとり暮らしの人とか高齢者の人がおまして、その周りに見守りをするサポーターがおると。これがAからLまでありまして、ブロック連絡会というのを開きまして、月一遍ぐらい開きまして、そこで色々その方たちの状況を把握するという会議でございます。

それともう一つ、生活支援サポーターとありますが、これは見守るだけではなくて色々重い物を持って欲しいとか、電球を付け替えてくださいとか、そういう要望もあるかと思ひまして、その生活支援サポーターをですね、主としてグリーンボランティアの方々をお願いするというわけで、そのグループの代表も連絡会に入っていました。それは民生委員、防災委員長、それと自治会の福祉厚生部の部長さんに入ってもらおうと。今、オブザーバーとしては社協の職員と自治会長さんと、こういうようなことでやろうよということになりました。

その次を見てください。今年の1月ですね、やることになったんですけども、どこの誰がひとり暮らしでふたり暮らしなのかよくわかりませんので、一番わかった人をさらにね、6名追加したいと思ひまして、グリーンボランティア等で知り合った前自治会の役員さんとか、あるいは高齢者の情報に詳しい年輪会の役員さんとか、あるいは現の自治会の役員の中でやる気のある方、こういった人を6名選抜、個別に当たりまして、とくと説明会を繰り広げました。そこで、そうしますと、その6名と、前から準備委員会でやっておりました新旧の民生委員の方、これは女性でありますから、女性8名が集まりまして、知恵を出して、誰がひとり暮らしなのか、1件1件やってみました。そうしますと、いとも簡単に、その日のうちにひとり暮らしとか高齢者、これは43名出てまいりました。それを、マップに落としたり、名簿を作りましたりいたしまして、これは個人情報ですので非常に管理は厳重にしようということにしました。いずれにしてもそこに住んでおられるね、年齢、ベテランの女性の地域に対する情報量というのはもう圧倒的でして、我々とても心配しておりましたけれども、ご婦人に聞けば一発でわかったと、こういう…これは地域の特性にもよると思ひますけれども、そういうことでございます。

それで、次ですね、そういうことで、1月に大体そういったことの見途がつかしましたので、3月ごろを目標にしまして、とりあえず四役、これは何ていうんでしょうね、実行委員ということ

でしょうね。それで、見守りサポーター6名、生活支援サポーター8名、それでもって発足いたしました。同時に住民の方に、こういうものができましたよと、これはちょっと細かくて見えな  
いでしょうけど、一応これは住民にね、こういう形で知らせました。

それからその次に、いよいよ戸別訪問ですから、社協で「安心ニュース」というのが毎月出て  
おります。色々お年寄りにとって有益な情報がいっぱい書いてあります。それと自己紹介チラシ  
というのを持って訪問いたしました。そこで出てきた中身は、歯医者さんを紹介してくださいと  
か、テレビの電源をつけてくれとか、具体的なことが、簡単なことですがけれども、2件ほど出て  
まいりました。それから、見守りサポーターも現戦力じゃ足りないということで募集しましたら、  
そこで6名出てまいりまして、現在は24名でやっております。これがいきなり行っても誰も誰だ  
かわかりませんからね、私はこういうことでやってきましたと、何かありましたらすぐ言ってく  
ださいと、こういうチラシと「安心生活ニュース」というのを持って訪問しているところでござ  
います。

最後になりましたけども、やっております色々感じましたことは、簡単に生活支援、お年寄  
りのお手伝いをするといっても、どこら辺の範囲までするかですね。これは色々考えてるところ  
なんです、要は相手とよく話し合わないトラブルの原因になるんじゃないかなと思っており  
ます。それから、訪問にいきなりですから話し合えません。簡単に、あと1年ぐらにかかるんじ  
ゃないかなと思っております。それから留守が多い。留守が多ければ、ただ入れてくるのはちょ  
っとまずいのでして、やっぱり何回か行って直接手渡すということですね。これが一つの見守り  
の方法にもなると思うんですね。そんなことでやっていきます。それから、自治会の役員が27人  
おりますから、この方が何とか我々24名に少しでもね、加わって見守りを手伝っていただければ、  
さらにいいのではないかなと思います。

最後になりましたけども、結論としましてはね、もうやりながら考えるより仕方がないと思っ  
ております。それから、また誰とでもですね、やっぱり先ほどもあいさつの問題が出ましたけど  
も、気軽に話し合える、あいさつし合うと、こういうことが基本になるんじゃないかと思  
います。以上、ご静聴ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 ありがとうございます。あいさつと、あとお互いさまという  
言葉がすごく何か温かくていい言葉ですよ。そういった言葉がまちの中にいっぱいあふれると  
いいなって思いました。

では、4つ目の報告に移ります。「援隣・友愛」の活動ということで、逗子市老人クラブ連合

会、援隣チームスタッフの半田様です。よろしくお願いたします。

【半田】 こんにちは。今ご紹介の中に援隣チームと友愛というテーマになってしまったんですけれども、これは実を明かしますと、逗子市の老人会の中に友愛チーム、それからもう一つは援隣チーム、このようにクラブ的な組織があります。それで、友愛チームというのは、全市的に五十幾つかのクラブの中で組織されているんです。それから、それをもう少し縮めたところに援隣チーム、今日は友愛チームのことよりも援隣チームのことについてお話をしてみたいと、このように思います。

まず、友愛チームというのは、逗子市の老人クラブが53あるんですけれども、その53のクラブの中で2カ所とか3カ所が合同になって、いわゆる友愛、ひとり暮らしのおうちを訪問したり、また同居人がいるんだけどお互いに高齢者の方だと、そういうところに週に1回とか月に1回とかの割合で、いかがですか、大丈夫ですかというような声をかけながら、手土産として100円、200円のお茶菓子を持って訪問するクラブ、これを普通に友愛チームと称しています。

また、この友愛チームのほかに、今さっき申しました援隣チーム、これは字のとおり隣を助けるという字が書かれています。このクラブは、平成12年の5月に逗子市連合老人クラブの中に誕生しました。これは、逗子市では沼間と池子と上桜山の3カ所にあります。それぞれ5人程度で発足したんですけれども、その5人の中で、いや、おれも手伝うよというような人が見えまして現在15人、それでたまたまそのころに大阪の小学校で大きな事故があったはずなんです。これを契機に、じゃあおれたちで小学校の生徒の登校時間、下校時間に、通学路その他交差点、そういうところでまず子どもの見守りをやろうじゃないかということがみんなの協力を得ながら今日まで続いているわけです。その見守りのほかに学校の行事に参加したり、また防犯活動という意味合いでパトロールをしたり、こういう活動をしているのが援隣チーム。これは、各町内会・自治会関係なく、それぞれのところから応援に来てくださっていますので、ほぼ全市的なものであろうと思います。これからもこれをつなげていって、年寄りの、何ていいますか、孫の面倒を見るんだというような形で、毎日小学校の校門、それから各通学路の周辺の交差点、そういうところで子どもたちに、おはよう、おまえ遅いぞというようなことを子どもと会話をしながらこの仕事を、これは年齢は関係ありませんので、できるだけ長い間やっていきたい、このように思います。

今日はテーマから外れましたけれども、友愛チーム、援隣チームのことについて述べさせていただきました。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 ありがとうございます。ご紹介いただきましたので、ぜひ私

もという方、半田さんのほうにお声をかけてみてください。ありがとうございました。

続きまして、5番目、防災活動、避難所運営委員会の活動ということで、沼間小学校地区避難所運営委員会、東町内会自主防災組織部長の高橋様、よろしく願いいたします。

【高橋】 それでは、沼間小学校地区の避難所運営委員会の活動内容等につきまして紹介をさせていただきます。私、当委員会で総務班に所属しております東町内会の高橋と申します。よろしく願いいたします。

さきの東日本大震災を受けまして、あのような大災害が発生したときに、どうしても避難所に避難をせざるを得ない人たちが発生するというところでございます。昨日の当委員会の中でも、ある方がおっしゃってました。逗子市では、そういった形で2日間の間に約1万人だったですね、1万人の方が…1万人じゃない、ごめんなさい。4万人ですか、4万人の方が避難するような事態が発生するだろうというようなことが言われています。その時に、この運営委員会は、その人たちの安全を確保するために、私たち地域住民と、また行政機関の方々と一体となりまして、避難所の運営体制を速やかに確立するというのを目的といたしまして発足いたしました。

ちょっと小さくて見づらいかもわかりませんが、見えないですね（笑）。発足いたしましたのは平成18年9月でございます。他の小学校地区よりも若干遅れてスタートしたようでございますが、今年で5年目に至っております。会長は先ほどあいさつがありました橋本紘一さんでございます。

会員の加入率でございます。これが何と全世帯の85%が入っているということでございまして、非常に高いんですが、委員会の性格上、これを100%に持っていくというのが私たちの大きなこれからの課題であろうというふうに考えております。

また、委員会の開催ですけれども、11月と12月を除きまして、毎月実施しております。数えまして47回を数えております。それとは別に、年1回の総会を実施いたしまして、当年度の実施内容の総括と翌年度の活動内容の審議というような形で行っております。また実際の訓練、避難所運営訓練でございますけれども、年1回実施いたしまして、トータルで4回実施しております。毎年9月でございます。これは本訓練というような形になりますけれども、当日の訓練をスムーズにするために、1カ月前の8月に予備訓練というような形でもって実施しております。合わせて…（ベルの音）あっ、もう終わる。

じゃあちょっとはしよりますけれども、訓練といいますと、ややもするとマンネリになってしまいうということで、それぞれの1回ごとにスローガンを決めて私たちは実施しております。1回

目は「訓練のための訓練ではなく」、2回目が「72時間の避難所訓練」、3回目は「水の確保」というタイトルでございます。1回から3回までは沼間小学校で実施しておりました。昨年は、これまた会長が紹介されたとおりの沼間中学校で実施しております。神奈川県が示されております「中学生は防災の即戦力」というキャッチフレーズがありましたけれども、ここに27名の学生さんに参加していただきました。まさしく若い力、頼りになるなというのが実感でありました。4回の訓練のうち、参加した人たちが、合わせましてトータルで880名、1回当たり約220名の方が参加されたということでございます。

最後になりますけれども、この避難所は、沼間地区としましては、今話のありました沼間小学校、それと沼間中学校、それとこの当館ですね。当館って、私、職員じゃないんですけれども、ここにあります。この3カ所が避難所として指定されております。テレビ等で連日その避難所生活の内容、様子を放送して、皆さん把握されていると思いますけれども、東北の方々の態度ですね、不便な生活を送っているにもかかわらず、誰ひとりとして不平不満を言いません。言うどころか、いろんな関係者の方々に感謝の気持ちがひしひしと私たちに伝わってくるわけです。これらを見ますと、やはり防災の基本であります、自分の命は自分で守るんだ、それとあと他人様もやはり私たちの仲間ということで、お互いに助け合いましょう、いわゆる自助と共助ですか、この原点を見るような気がいたします。

最後になりましたけれども、私たちの委員会も、これらの大きく受けた教訓をもとにして、これからもより真剣に、より現実的な運営をやっていこうということで、委員会一同、意を決した次第でございます。ちょっとオーバーしましたけれども、よろしいでしょうか。どうも。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 ありがとうございます。避難所運営訓練に参加したことがある方って、ちょっと手を挙げてもらっていいですか。訓練に参加された方々。半分ないですかね。9月に行われるということなので、ぜひ参加してみてください。ありがとうございます。

続きまして、自治会・町内会の活動のご報告です。田越川の清掃、草刈りの活動、水道路古桜の保全といったことで、桜山4丁目町内会会長の愛様、よろしく願いいたします。

【愛】 桜山4丁目町内会の代表をしています愛と申します。桜山4丁目町内会は、水道路の桜と田越川、それに対しては里親となってまして、その取り組みをしています。その取り組みに関して、事前に色々な取り組みを4丁目ですてますので、その経緯を説明しながら行いたいと思います。

桜山4丁目なんですけど、面積は約16万平米です。世帯数が400。人口はこうなんですけども、うちの特徴なんですけど、水道路に70年前に植えられた桜があります。ということとね、いろんなこういう古道があって、庚申塔や西の神、これは耳の神様です。踏切のそばにありますよね。そういうものが置いてあるというところでございます。

じゃあ町内会がやっていることなんですけど、これは平成11年4月に発足しました。年会費は1年で500円、ワンコインです。多分これ、ほかはないと思います。役員は自薦・他薦で輪番制じゃありません。世話人という形で皆さんに呼びかけてます。会員は現在237で、約会員全体で60%ぐらいですね。アパートがあるのでなかなか大変なんですけど、大体トータルでいけば80ぐらいかなということをお負ひしてます。防災倉庫は5カ所に設置しまして、災害への対応ということでやっています。

町内会はどんな活動をしているかということなんですけど、世話人会を毎月1回、第3土曜日に集まっています。町内通信の発行云々というのは、これは順次説明していきます。

まず、これが町内通信です。町内通信、大体年に10回ぐらい今出しています。これが100号記念です。100号記念で、これはカラーで4面。1面はあいさつですが、中には、ここに書いてありますが、3面なんですけど、各4丁目得意な技術を持った方がおられて、特にこれは非常に神奈川新聞等で有名で、秋になりますとね、他県といってもいいですね、そういう方が見に来ます。そんなようなことで町内通信を発行しております。

これは、我々としては初夏の交流祭ということで、人の集まりをしようということで、23年、今年初めてできなかったんですが、例年このような人の集まりで、大体フリーマーケットをしながら子どもたちを楽しませております。

これが納涼祭、今度7月の23日にあります、今年はですね。会費、大人700円、どうぞ皆さん来てください。子どもは300円です。女性が500円で、これは飲み放題、食い放題です。そこにありますけど、スイカ割りをしたり、皆さん色々楽しんでおります。

これは餅つき大会。あんまり餅つきをするということはないでしょうけど、我々はこうやって餅つきをしまして、そのほかにバーベキューがあったかな、焼きとり等をしながら、みんなに呼びかけを行っております。

次、安心・安全の取り組みなんですけど、これはつい二、三日前にやりましたんですが、地域を回っております。特に今年は夜警、夜回りを3回ぐらいやっただけということなんです。

次にアルミ缶の回収、これは非常に貴重な財源ですので、やっております。

防災の手引、これはうちのほうで、こういう防災の手引をつくって、皆さん方に配布して、どういう倉庫に何があるかというようなことを皆さんに明らかにしてございます。

これはAEDの講習会、こういうこともやりました。

それから、川掃除です。川掃除は、これは2003年に里親となって、年に4回、今度は7月の9日かな、土曜日です。どうぞ皆さん、来てください。色々川の掃除等、それから周りの草刈りということで行っておりまして、皆さん結構これは来てくれるんです。

これが桜の木です。これは、昔はずっと水道路にずっとあったんですけども、今は4丁目のマルエツのそば、これ1本しかございません。これは、ともかくこれが枯れそうだということで、この木の保全についてやりました。これ、ロッキングは全部あるんですが、石がありますが、そこを最初、2年前ぐらいかな、全部掘り起こしたんですよ。約深さは40センチから50センチかな、そこを全部土を入れかえまして、してみました。毎年2回整備をしています。一応こう剥がすんですね。全部剥がすわけじゃないんですが、これは大変ですよ、意外に、剥がすこと自体が。また埋めること自体も大変です。そういうことをやってまして、桜の保全に努めているということでございます。

最後なんです、これからの取り組みとしてですね、会話を増やすということと、相互に親睦を図るいろんな取り組みをまたやっていこうということと、田越川の清掃活動、これは市のためになりますので大いにやるということで。桜の木の取り組み、毎年あそこに来るといい桜が見えるんだということにしたいと思っておりますので、どうかご協力のほど、よろしく申し上げます。以上です。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 ありがとうございます。桜山4丁目町自治会のあの田越川の草刈り作業はすごいですね。私、2年前ですか、一度お邪魔したんですけども、ここまでやってもらえるんだなとか、できちゃうんだなという、実は驚きを感じたところです。ありがとうございました。

では、続きましての報告です。自治会・町内会の活動の報告、2つ目ということで、アートフェスタ、逗子アーデンヒル自治会会長の山下様、よろしく願いいたします。

【山下】 逗子アーデンヒル自治会で会長を務めます山下です。どうぞよろしく願いいたします。自治会活動のアートフェスタについての発表をいたします。

これがアーデンヒルの今の航空写真の現状なんですけど、上から見てのとおりほとんど住宅が詰まっている形の中で、この公民館から沼間中学校へと上がっていったあたりの住宅地で、現在

540戸ほど建ち並び、緑豊かな町並みとして形成されています。平成元年に発足した逗子の中でも比較的新しい団地の自治会です。

アートフェスタの経緯ということでお話しします。アーデンヒル自治会の文化・スポーツ部というのは、会員相互の親睦、交流を深めるための文化・スポーツ関連事業を開催することを目的の一つとしています。そのような観点から、夏祭りのほかに色々な行事、例えばハイキング、バトミントン、卓球といったようなことをやってきましたが、近年は残念ながら参加者が少なく、どうかすると文化・スポーツ部員と何人かの班長が参加するという、いわば内輪の行事のようになってしまうことが間々ありました。結果として全員の会員の親睦、交流を深めるという目的が、なかなかかなわないことになってしまいました。そういう中で、もっと幅広く自治会員が交流できるようなことはないかと考えたのが今回のアートフェスタでした。

以前からアーデンヒルは腕自慢の芸術家がたくさんいらっしゃるということは聞いていました。それらの方に自分でつくった作品を出展してもらって、それらを一堂に集め皆さんに見てもらおう、自治会館でやれば皆さん気軽に来られるだろうし、そこでお茶でも飲みながら歓談してもらえれば、おのずと交流も深まるのではないかと思ったわけです。

ということで、班長会での承認も受けて開催することになったわけなんですけれども、一番大きな問題は、果たして何人出展してくれるだろうかということでした。最悪全然反応がないかもしれないという恐れから、出展がなかった場合を想定して、何人かの方には出展してくれるように根回しをしつつ出展のお誘いというお知らせを回覧いたしました。その結果、案に相違して何と22名から総数100点近い出展申し込みがありました。これは本当にうれしい驚きでした。さらに驚いたのは、作品のそれぞれがすばらしいもので、お世辞抜きで玄人はだしというようなものばかりでした。そして、開催当日は80人以上の参観者がありました。夏祭りの参加者が100人から120人ということを考えますと、予想以上の参観者数でした。会場は、和気あいあいとした雰囲気で話しも弾んで、お久しぶり、お元気でしたかという声があちこちで飛び交い、中にはこの方に習いたいから紹介してほしいという要望もあったりして、皆さん十分楽しんでいただけました。

終了後、皆さんの共通した声は、レベルの高さに驚いた、こんなに色々なことをしている人たちがいるとは思わなかった。おおむね好評でしたが、中でも印象的だったのが、初めて自治会の催しだと感じたという感想でした。もしほかの参観者のときもこのように感じたとしたら、アートフェスタを開催した意味はあったのかと思っています。実際会場の雰囲気から、同じようなコ



コミュニティーに住む仲間同士の温かな一体感が強く感じられました。これは、夏祭りでも感じられないようなものでした。夏祭りは確かに自治会全体の催しですが、基本的には子どもたちという位置づけのために、アートフェスタは大人が楽しめるという催しということが好評だった一因かなとも思います。

午後は、和室で俳句の句会も開催、主催した方に聞いたところ10人ぐらい参加をいただき、初めての方がほとんどだったのですが、一句ずつ作り、その魅力にひかれました。実は、この後、参加者を募集し、毎月8人で句会を続けていて、俳句で季節を感じ、表現し、日常生活で楽しんでいます。5・7・5は綴ることに意味があるとのことでした。同じ趣味を通じて住民同士の交流を深めることができたよい例だと思いました。

段取りや撤去などの作業は少々手間がかかりますが、予算は大してかからず、かつ交流を深めるという効果はかなりあるということで、今年も実施する予定でいます。都市型の自治会として高齢化の進む中、難しい面も多々ありますが、少なくとも住んでいる住民同士が顔を知っている、できれば名前を知っているということが必要だろうと認識してしていますので、アートフェスタに限らず、同様な催しを通して、今後住民同士の交流を図っていければと考えております。

以上、アートフェスタについて、逗子アーデンヒル自治会の活動発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 地区外の方が見えてもいいんですか。

【山下】 それは構いません。

【司会（福本市民協働課長）】 はい。お配りしたチラシの中で「アートフェスタ開催のお知らせ」とありますが、これは昨年のもので、勘違いなさらないでください。次はというか、まだ決まってない。

【山下】 ちょっと日にち決まってません。申しわけございません。

【司会（福本市民協働課長）】 ということで、ぜひですね、機会があったら足を運んでいただけたらと思います。ありがとうございました。（拍手）

続きまして、子育て応援団「地域で子育て」逗子市社会福祉協議会、福祉教育拡充チーム子育て応援団の桑原さん、よろしくお願いいたします。

【桑原】 皆さんおはようございます。久木から来た桑原です。よろしくお願いいたします。画面に出ますが、社会福祉協議会の中に福祉教育推進という事業がありまして、その福祉教育を地域で実践するために、市民を中心とした会議があって、そこで一つの取り組みとして沼間地域

でやらせていただいた事業についてご報告させていただきます。

それが、この子育てママ・パパへのご褒美講座ということです。後で詳しくご説明しますが、この場所をお借りして、若いパパとママがアロママッサージを体験して、その間に子どもたちは地域の方が中心に見ていただくという取り組みです。

もう一度ちょっと簡単に福祉教育のことをご説明しますと、一般に福祉教育というと、いわゆる学校での車いす体験ですとか、当事者のお話というイメージがあると思うんですが、私たちは地域での助け合いですとか学び合いをするというのも福祉教育というふうにとらえまして、沼間地域でもやらせていただいたということです。

ご褒美講座の概念をご説明しますと、子育てをテーマとして地域の方がつながり合ったり、助け合ったりすることを実践していこうということで、これまでに山の根地区と池子地区でも同じようなものを開催させていただいています。

具体的な内容なんですが、△の上の地域の参加者というのが、地域にお住まいの若い子育て世代の家族です。今回もその学校とかいらっしゃって、地域の方の講師が今回で言えばアロママッサージの先生なんですが、地域のパパとママはアロママッサージの先生に、アロママッサージのコーナーを受けていると。△の右側の下なんですが、地域の協力者という方が自治会の方なんですが、自治会の方はいわゆる会場のセッティングですとか、あと子どもたちと遊んでくださったりとか、受付とか、そんなことをしていただいたり、あとチラシの回覧ですね、そういったご協力をしていただいております。そして、そういった講座が終わった後に、終了後には皆さんで懇談会をして、いわゆる異世代の方が一つの事業に参加してつながり合う場を設定しているということです。

今回はそれを沼間公民館でやらせていただいて、今、連合会が立ち上がったというお話でしたが、実施したのは2月でしたので、まだその前でしたので、この近隣の町内会や自治会の方にお願いをして、チラシと回覧でさせていただいたということです。これが回覧した回覧板です。

あと実施風景なんですが、これがアロママッサージを始める会場です。これがマッサージを受けている、ご夫婦で受けている様子。これが参加者同士がやっている。これはパパ同士がやっている。こんな形で地域の方が触れ合っています。これは子どもたちが地域の方と折り紙でおひなさまをつくっているところです。これも同じようにやっているところです。これが最後の懇談会という形になっています。

まとめになりますけれども、簡単な取り組みなんですが、私たちの中でもそういったノウハウ

がありますので、各自治会の方にこんなやり方で皆さん、異世代がつながることはどうでしょうかということを実際の取り組みでご協力をしながら地域の活性化につなげられたらなと思っているとあります。簡単ですが、以上でございます。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 はい、ありがとうございました。そうですね、何か地域の問題をこうやって何か楽しみながら解決していくというのは何か非常にアプローチとしていいのかなということを感じさせられました。ありがとうございました。

続きましての報告です。沼間小学校及び沼間中学校における学校支援地域本部の取り組み。沼間中学校地域コーディネーターの二瓶さんです。よろしくお願いします。

【二瓶】 皆さんこんにちは。沼間中学校の地域本部コーディネーターの二瓶です。地域本部というのは、各小学校・中学校、全部で8つあります。今日は沼間小学校の部分を含めて報告をさせていただきますと思います。

これは先ほど半田さんがお話しになったんですが、グリーンキャップ隊の一部です。同じように、田植えをしているところですね。これが学校制度という部分になります。これがグリーンキャップのお話で、次はこれはミシンのお手伝いということですが、これは5、6年生のミシンの授業に先生の手だけでは間に合わないということで、保護者が参加しているということです。これは読み聞かせなんですけど、9年ぐらいもうやっているそうです。それで6年生が卒業するときに、ある子は250冊ほど読んだという話があります。これが一応小学校ですけども、次に中学校へいきましょう。

これは中学校になりますと、地域に出てきますので、これは、この7月10日にもありますけれども、七夕で浴衣を着て演奏しているということです。これが先ほどお話があったと思いますけど、避難所訓練で、中学生も参加しているという、そういうことですね。これは五霊神社のお祭りがありますけども、中学生も参加しているという。これではもう一つ言いたかったんですけど、中学校は駅伝にも参加してまして、こういうふうに中学生の写真がありますね。これは中学生が参加しているところです。今日は沼間中学校はふれあいデーということで、地域の方を講師に来ていただいてお話を聞いたり、それからボランティア活動をしたり、まさに地域一体でやっているんですね。今日はたまたま皆さんにご紹介しておきたいんですけども、アンコール・ワットという、今日はこれちょっと時間、取り込めなかったんですけどね、これが、アンコール・ワットの専門家の上智大学の前学長が来てお話をし、今、積み木でつくっているところです、子どもたちが。もうそこそこでき上がっています。ですから、皆さんもしお時間がありましたら、講演

会は1時半からです。そのときにはもう完全にでき上がっていますので、ぜひおいでいただきたいと思います。

ということで、小学校の場合は若干受け身かもしれませんが、地域の人が学校に来るんですけど、中学校の場合は中学生がみんな外へ出て行って活躍すると、そういうことをご理解いただければと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 はい、ありがとうございました。学校を支援するという取り組みなんですけども、これかかわっている地域からすると自己実現であったり、あるいは自分の居場所ということなのかもしれないですね。はい、ありがとうございました。

最後です。ゼロ・ウェイストの取り組みということで市長から報告いたします。

【平井市長】 数々の取り組み、皆さん本当に簡潔にまとめていただいて、大変わかりやすく、ありがとうございます。私はパワーポイントを用意しておりません。ごみの問題でゼロ・ウェイストということを進めています。これは、ウェイストというのは無駄ということですね。無駄を省こう、無駄をゼロにしよう。ごみはごみじゃない、ごみは資源だと。ですから、できるだけ資源として再利用、リサイクルするという取り組みをしているんですね。去年からこの沼間公民館でも拠点回収というのをモデル事業で始めました。日ごろ瓶とか缶とかペットボトルとかをお近くのそばの、ご自宅のそばのステーションに皆さん出していただいていると思いますけども、ほかのものは燃やしているんですよ。だから、そうじゃない色々な品目をもっとリサイクルするための拠点というのを、去年は沼間公民館と小坪公民館と市役所で設置しました。ここにもボックスがあります。ビデオテープであるとか廃蛍光管とか廃食用油ですね、あるいは電池とか、こういうものも皆さんがここに持ってきていただくとリサイクルのほうに回して、燃やしたり最終処分ですてたりということがないようにして、11品目だったかな、設置してるんです。今年さらに3カ所ふやす予定です。青少年会館とかあとハイランドの自治会館でもやっていただくことになりました。できるだけこういった拠点を地域の中に増やして行って、そうすることで皆さんが今までステーションに捨てていたものが資源として活用されて、ごみとして回らずに、環境に優しい、そうした暮らしになるということを、まず目指しているんですね。ですから、沼間地域は公民館にありますから、ぜひ皆さん、ね、持ってきていただければリサイクルできます。ビデオテープが最近かなり繁盛してまして、最近みんなDVDにかかわっていますので、ビデオテープがお宅に多分たまっていると思うんですよ。それを市役所とか沼間公民館のリサイクルのボックスに持ってきていただくと、今は業者が持って行って全部分解してリサイクルしてくれるんです。

ですから、恐らく皆さん、家でたくさんビデオテープたまっていると思いますから、ぜひぜひ持ってきてください。それを色々な地域の自治会とか自治会館とか、そういうところにできれば置いていただいて、もちろん管理も必要になりますので、その地域の皆さんがそうしてちょっとでもかかわって管理することで、もっともったごみが減っていくと思います。

それともう一つ大きいのは生ごみですね。今、焼却しています、ほとんどは。でも、その焼却の、燃やすごみのおよそ4割は生ごみです。あと植木の剪定枝、剪定したね、これも今、家庭から出てくるのはもうほとんど焼却しています。これを何とか燃やさずにリサイクル、減量したい。これでみんなが協力してくれれば焼却の量は半分になるんですよ。今、植木のほうはクリーンセンターのほうにチップ化の機械をやはりこれも去年入れました。ですから、事業者さん、植木屋さんが持ち込んでくる植木の剪定のごみとかね、枝は今、全部チップ化して、それを一部は堆肥化をして堆肥にする。例えばそのチップにしたものを公園にまいたり、そういうこともしています。家庭の植木のその枝なんかもチップ化できるように、今度は持ち運び可能なその機械も買いました。ですから、申し込んでいただくと、持って行って、ご自宅まで持って行きます。そして自分の家の枝を切ったものを粉碎して、それを例えば自分のお庭にまいて、チップのお庭にするということもできるようになっています。これも植木の出たごみを燃やさないという取り組みが一つ。

生ごみについては、よくある程度家庭の生ごみ処理機ってありますよね、最近「バクテリア de キューロ」というのが大変人気です。私も家で使っています。それは1.5メートルぐらいの四角い箱にふたがついてまして、透明のこういうアクリル製のふたがついていてまして、そこに土を入れて、そこに家庭で出た生ごみを掘って埋めて土をかぶせるだけという、そういうものなんですけどね。これで生ごみはバクテリアで分解されて、ほとんど消滅します。だから燃やすごみには出さずに済んでいる。最初入れる時に私の妻も、そんなのやったらウジがわいたり、生ごみの腐ったにおいがするだろうから絶対嫌だと言われまして、まあでも、頼むから物は試しにやってくれと、おれも実際やってみなきゃ人に言えないからって、やったんですね。そして、やってみたら意外に意外に、におわないです。最初にちょっとウジ出たんですけど、一生懸命かき回してつぶしたりしてやると、もうじきにはそんなものも出なくなって、とにかく掘って埋めて、それを点々と何日かごとにやるんですね。そうすると全然においもしません。そういったものをやっています。土もあわせて1万2,000円ぐらいなんです。補助金の補助率を上げました。去年からか、3分の2補助しますから、1万2,000円でもう8,000円ぐらい補助して4,000円ぐらいの

負担でそれができますので、これを皆さんのご家庭に入れていただくと燃やすごみは半分になっちゃうということなんです。

何で一生懸命やるかと言うと、実は今、逗子の最終処分場、埋め立てますね、燃やした後の灰とか、あるいは粗大ごみなんかを分解して、リサイクルできるものはもちろん出しますが、どうしてももう埋め立てなきゃいけないもの、それが今、逗子市の埋立場に今埋め立てているんです。ところが、これもうあと2年ぐらいしかもたないと言われていて、今年、実は1億数千万円かけて、とにかく圧縮してかさをふやして、あと七、八年もつように今工事が始まるんです。でも、これそのまま今までどおり埋め立てていたら、また7年後には満杯になって、今度はもうどうしようもなくなります。というので、とにかくもう埋め立てる量を減らさなきゃいけない。そのためには今言った、とにかく燃やさないで済むものは燃やさない。リサイクルできるものは徹底的にリサイクルする、生ごみも燃やせばもちろん灰になって埋め立てしなきゃいけないんですけど、各家庭でやってもらえれば、それはそれで燃やさなくて済む。あと、大型生ごみ処理機というのも何カ所か今あります。沼間の市営住宅にはあります。あと、久木の清寿苑という特別養護老人ホームと、池子のせせらぎにも大型生ごみ処理機があります。こういうものも市民の自治会館とかね、置いていただくと、家庭で生ごみの処理容器が置けないところは、そこまで持ってきていただければ地域の中で生ごみも資源化なり減量ができる。そんな取り組みをとにかく組み合わせることで徹底的に減らす。

おまけに焼却炉、これがもうできて27年たったので、もう老朽化して、これを何とか大規模改修しないと、もう炉がもたないということで、実はこれも来年から三十数億円かけて大規模改修するんです。したがって、とにかく徹底的にごみを減らしてこの環境に優しいとともに、財政的にもかなりかかってくるので、これからもっともっと地域の中でごみの取り組みもふやしたいと。必ず皆さんがお困りのことは、ステーションのごみが本当に散乱したり、カラスが、ね、突ついたりして困っている、だからカラスの問題は生ごみが分けられれば解決するんです。ステーションに生ごみを出さなければ、カラスは来ませんから、とにかく徹底的にどこまで地域の皆さんとできるかというのがゼロ・ウェイストへの挑戦なんですね。

私が特に言っているのは、生ごみというのが、ごみのこの取り組みというのは全市民に影響することなので、このごみは捨てれば終わっちゃうんだけど、これをどうしようかというみんなと相談して色々な取り組みをすることで、地域のコミュニケーションとの、コミュニティーがこれを契機に色々深まったり広がったりするって、すごく感じています。例えば市役所の前で市民団

体等が月に何回かリサイクル広場というのをやってくれています。そうすると、そこで集まった人は、再利用できるものを持って行って、あと、あ、これいいなといったら持って帰れて、物々交換が成立しているんですね。そういうのもいろんな、例えば地域の自治会館とか公園とかそういうところでやっていただくと、ごみのリサイクルを通じてまた地域の中のコミュニティーがより深まっていく、そんな色々なことをね、組み合わせて、このごみというものもぜひ地域の皆さんとこれから色々進めていきたいなと思っています。だから、沼間の連合会、立ち上がりました。ぜひ沼間の皆さんともね、じゃあ、このごみ、もっともっとどうしようかということ色々とディスカッションして、これからさらに色々な意味の地域の活性化の一つとして取り上げていただきたいなと、そんなふうに思っています。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 はい、前半の発表、報告の部分が終わりました。予定の時刻より20分実は押しております。後半意見交換がメインになるんですけども、そのアイスブレイクということも兼ねて、ちょっと簡単なワークショップをやってみたいなと思います。時間の都合上、ちょっと時間が短くなってしまいましたが、ご容赦ください。

お配りした資料の中に、後から配ったんですけども、こういった資料があるかと思います。裏表の印刷です。頭には「沼間小学校地区の地域活動、資源棚卸しシート」とあります。これ裏表で、表側のほうは、①現在あるもの、行われていること、裏は、今はないんですけども、将来的にあって欲しい、行われて欲しい、いくつでも。このうちなるべく早く実現してほしいもの1つだけ丸をつけてください、そんなようなシートになっております。これ後ほどちょっと意見交換の中にも材料として使いたいなと思っているんですが、もう一つ別に配られた資料でこういったのが、縦のでありますね。これはちょっと市民協働課のほうで調べた沼間小学校地区におけるその地域の生活を支えるような活動を並べたものです。これが全てかどうか正直我々もわかりません。ですので、最初に説明したこちらのシートに書いていただけませんかということですね。時間がないので①番、現在行われているものにつきましては、お時間があればお書きいただければいいのかなと思います。メインは裏側の②番、今はないんですけども、あるいは私知らないんですけども、こんなことがぜひ地域で行われてほしいというふうに思うものを、思いつく限りぜひお書きください。そのうち、なるべく早く実現してほしいもの、欲張らずに1つだけ、1つだけ選んでみてください。はい。これ後ほどトークの部分に使いますんで、マジックで、ほかの皆さんにも見えるようにぜひ書いていただきたいなと思います。そうですね、今からお時間3分ほどでよろしければお書きいただけますでしょうか。お願いします。

( 棚卸しシートに記入 )

はい、すいません、ちょっとお時間足りないかなと思うんですけども、すいません、進めさせてください。最初に配った名刺、皆さんお手元にありますか。今書いていただいたワークシートをぜひ隣の人にこんなことなんだよと、ちょっと自分の思いを説明していただきたいんですけども、最初に名刺交換をしてから、ぜひ、お互いにちょっと説明し合ってみていただけますでしょうか。そうですね、今から、これも同じく3分程度ということで。遠慮なくコミュニケーションをとっていただきたいなと思いますので、はい、じゃあ、お願いいたします。

( 名刺交換 説明 )

はい、すいません、お時間です。よろしいでしょうかね、大丈夫ですか。

**【平井市長】** はい、皆さんお隣との会話は大変盛り上がったようでございますけども、残り30分ぐらいですから、今までの発表、そして今、皆さんがお書きいただいた、これから取り組んでみたいこと、そういうものを交えて少しトークしたいと思います。

まず皆さん書けましたか。なかなか書けないものですか。ちょっと掲げていただけますか。地域の防災マップ作成、津波に対応した避難訓練の実施と書いてありますね。10年後の自治会活動のあり方。高齢化のまち。そうですね。実はさっき交換していただいた名刺ありますよね、これさっき橋本さんが説明いただきましたけど、今年、市の事業として予算化しているんです。その名刺大作戦というのを、大した予算じゃないんですけど、名刺のひな型をつくって、それで地域の方がそれを印刷して、自分の地域の中での名刺として、お互いのコミュニケーションの道具にしようということで、今、事務局のほうで、今日お配りしたのはまだ案ですので、地域の皆さんと色々と、こういうデザインがいいとか、こんなものを書き込めたらいいとかいうのをちょっと話し合っ、それで市民交流センターでパソコンありますから、そこでこう印刷してね、皆さんにお使いできるように、これから企画を練るんです。ぜひ皆さんの地域でも一つのひな型ができば、あとはね、紙さえあればできますので、なかなか自分を紹介するのね、難しいでしょうから、使っていただければなと思っています。そんなことをきっかけにして、あとはあいさつ運動ね、地域の中での交流が広がればなと、そんなふうに思っています。

いかがでしょう、お隣さんでこんないい意見があったよというのを、交換した中で何か発表していただければ。何かありませんか。自分の意見じゃないから、無責任に言えるんじゃないかな。いかがでしょう。そうじゃなくても…ありますか。遠慮なさらずに。はい、どうぞ。

**【市民】** 各自治会のことだけど、勧誘に行くんだけど、自治会には入らないというの相当数い



るんですよ。パーセントで言うと30%とか20%各地区であるというふうに聞いています。それをいかにして自治会に入れるかというシステムを作って、やっぱり勧誘して入れるということがないと、防災などの対応がやっぱり機能することができないですね。まず、基本的に自治会の母体をしっかりするということがまだまだ各自治会の形を見たのでは脆弱だなという感じも受けます。だからそういうものがまず基本だと思います。あまり書くと長くなるから。

【平井市長】 ありがとうございます。自治会のね、加入率を維持、高めていくというのは大変皆さんにとっていつもいつも悩ましい課題だと思いますけども、皆さん、頑張ってもらえないかな。地域地域であちこち、永瀬さんの方からもしていただきましたけれども、今はどっちかという個別に色々な補助金とかも出していますよね。資源回収の奨励金もそうだし、あるいは防災のための、自主防災の資機材のね、補助金も、これもやっています。それはそれぞれ防災課がやっていたり、資源循環課がやっていたり、ある意味、要するに縦割りで補助金を出していますよね。そういうのはもう、できれば地域に一括して、ある一定の額をね、差上げて、そこで地域の中で、いや、うちはもう防災はいっぱい十分資機材あるから、じゃあ他のものに使おうとか、新しい自主防災組織ができてないエリアがまだあるから、じゃあ、そこに重点的に、まずは立ち上げてもらって、防災のね、色々な機材を買きましょうとか、あるいは地域の安心生活のね、こういうお互いさまみたいなのがまだできていないところは、まずここに少しお金も投じて、色々な材料を買ったり、あるいはニュースを作るためのそうしたものに使ったりとか、地域によって色々なニーズがそれぞれあるはずなので、もうちょっとそれを地域の皆さんに委ねて、その中で色々有効に活用していけるような配分の仕方ができたら一番いいんじゃないかというのが一つの発想なんです。だから、今は縦割りにやっていますけども、それを一括でぽんと、そのやっぱり受け皿が必要ですよね。その意味では沼間の地域で連合会立ち上げていただいて、それを地域の全体のね、色々な課題について取り組もうということがスタートしたというのは、本当に私としても心強く思っているんで、あとはどういう仕組みでこれをね、発展させていくかという、なかなかまだそれが描ききれてないので、この仕組みを今年度何とか行政内部でも議論するし、地域の中でも議論しながら、どうやれば一番この仕組みをね、作り上げて、皆さんが一番活動しやすい、資金的にもあるいは人の面でも、なかなか事務局機能を皆さんの市民のボランティアで担うというのは厳しいですよ。もう町内会の会長さんは本当にいつもいつも粉骨砕身、努力いただいているので、その負担も何とか軽減できるように、人材をどう置けばいいのかなということも一つ大きな課題として、この仕組みの中で考えていかなきゃいけないなど、そんなふうに思

っているんです。

まだまだちょっとぼやっとした感じなんですけど、これを今年度とにかくどうやれば一番スムーズにそうした地域の中での活動の仕組みに移行できるかなというのを、ぜひ気づかせたいと。そのためにこうやって各地域ごとに今やっているんですね。今回は沼間が3回目ですけども、9月前後に池子でもやりたいと。最後は逗子小学校区で来年の12月ぐらいでできたらいいなど。その間に、だんだんだんだん、あ、こんな形でというのを描きつつありますので、じゃあそれじゃあ、2年後か3年後かぐらいにはどういう仕組みでやろうかというようなことを今考えています。そんなようなことをイメージしながら、ぜひ色々な地域のね、皆さんでの知恵を集めていきたいなと思っています。

さあ、せっかくですので、じゃあ何か書いておられた方の発表…あ、どうぞどうぞ。

【市民】 隣の中山さんという方から名刺いただいたんですけど。今後やりたいという中で、沼間公民館祭りの開催を期待している。どこかの…小坪かどこかでやられているんですかね。

【平井市長】 小坪は公民館祭りというのは毎年やっていますね。今年はちょっと震災の影響で中止になったかな。2日間の予定が1日に短縮になったんですね。毎年やっています。

【市民】 催し物のことはね、その中で考えていけばいいと思うんですけど、今回意見交換ができたんで、そういった取り組みも加えていただければ。ちなみに私も希望を言ったんですけど、沼間物産会など、そのお祭りの中に入れていただきたい。地域で言うところは逗子のチベットと言われるぐらい（笑い）言われる方が多いんで、結構大変なところですよ、ここはね。家庭農園をやっている人がおります。ちなみに私もやっております。そういう物産展をやれば、大根の2、3本は供出できるという気がいたします。

【平井市長】 ぜひ、地域の皆さんが、ね、色々な企画をね、立てていただいて、もちろんここに公民館の職員もいますので、色々話し合いながらね、つくっていただけるといいなと思いますけど。さあ、小坪が出たので、小坪公民館祭り、どんなことをやっているか、ぜひ紹介してください。小坪の自治会の方もいらしていただいているんで、どうぞ、前へ。小坪公民館でどんなことやっているか。

【市民】 たまたま公民館祭り委員会の委員をしてみましたので。今年は残念ながら地震の直後で、1日はこれ中止になりました。それで、今年度やったんですが、結局海の近くでしたので、とにかく子どもは早めにお返しするような形…すいません。はい。内容なんですけれども、小坪公民館をご利用なさっているクラブの方がいらっしゃいますね、絵画をやったり書道をやったりとい

う方々の、まず室内は展示品をやります。展示品の展示したり、あとは手づくりコーナーを設けたり、あと地域の団体でお子さん向けにお手玉のつくり方を教えたり、あと外でお祭りのおはやしをやっていただいたり。子どもたち向けには…2日間やるんですけども、ビンゴで景品をお出ししてビンゴで楽しんでいただくとか、あとは地域の方々に頼んで食品ですね、食べ物を売っていただくとか、あと綿菓子とかもやりますね。あとは野菜とか漬物とかの販売をしていただいたりとか。大体そこら辺でやっているお祭りと同じような感じでやっています。委員はその公民館を利用している団体で集まって、何人か選出して委員をあれするんですが、中心はやはり公民館の方々に色々スケジュールとかも立てていただいて助けていただいてやっているという感じですね。

【市民】 それでちょっとお聞きしたいんですけど、その場合にあれですか、光明寺団地とか亀ヶ丘団地の人たちもみんな入ってやっていますか。

【市民】 いや、そういう感じ…どちらかというと、その公民館をご利用なさっている方が中心ですね。

【市民】 ざっくり、結局今言ったようなね、新興の団地のね、住宅街も一緒にというふうな形…。

【市民】 地域のお祭りという感じでは…正直言うと地域のお祭りという…

【市民】 うまく取り込んでね、やっぱり総体で小坪地区をというふうについて欲しいですね。

【平井市長】 実はですね、今、公民館なので、行政…教育委員会の担当なんですよね、公民館というのは。これを沼間の公民館で、教育委員会が今所管しているんですけど、それを地域のコミュニティー施設にしたいというのが私の考え方なんです。それは教育委員会にももう議論をしていただいて、生涯学習センター化と言っていますけれども、いわゆる公民館というのは、事業はしますけれども、地域の中核施設としての位置づけに転換しようとしています。そうすると今、雨宮さんがおっしゃったような地域の拠点として色々なお祭りをする時も、公民館…施設の利用者だけじゃなくて、地域の人がそこに集まって色々なお祭りをやったり、あるいは講座をやったり、色々なイベントをやったり、そういった中心的な施設になるといいなというのがこれから目指しているところです。だから、沼間のこの公民館も、何年後かにはちょっと運営の仕方を変えていって、できれば連合会立ち上がりますので、連合会の方に主体的にね、運営していただく、地域の中核的な拠点施設になっていくといいなと思っています。久木にもようやく場所をね、ちょっと特定して、2年後ぐらいを目指して地域の中核的な施設を整備しようということになりま

したので、そうするとほぼこれで各小学校区に1つ中核的なね、地域の拠点ができて、あとそれ以外には団地とかに色々な会館がありますから、そこで色々な、地域の方が活動していく中で、さっきのごみの問題とか、アートのフェスタやったり、色々な支えの活動が広がっていくといいなど、そんなふうに思っています。

はい、いかがでしょう、ほかに…ちょっとほかの方のご発言もいただきたいので。すいません。じゃあ、どうぞどうぞ。

【市民】 名刺をいただきました。これはね、多分ね、散歩に来てみませんかという内容です。名越に行く道の鎌倉…これ、次、何て読むんだろうね、書いた人。何とか園と書いてあるの、これ。裏手から眺望がすてきですよ。ここへ来てみたらどうですかっていうんで、逗子の八景みたいなね、話になるんじゃないかなと思って。春は非常に新芽が出てきてお勧めですということです。これ、名前言っちゃっていいんですか、書いた人。副市長です。副市長が書いてくれてね、非常に達筆なんで、ちょっと読めないでごめんなさい（笑い）。だけど、そういうものが我々の中にある。実は、なぜこんなことを言っているかというね、今、沼間のね、みんなで散歩しようよということで、今年の初めごろから、景観の話でちょっとみんなで回っているんですよ。（「自然の回廊」の声あり）うん、あ、そうそうそう。それでね、沼間の要するに写真を撮ったり何かして、ある程度のところでまとめるんだけど、みんなが要するに地域の人ももうちょっと参加してもらってね、要するに沼間の要するに新しい歴史みたいなのを発掘みたいのをしてみたいなということがあってね、今メンバーとね、回っているんだけど。このごろちょっと連合会のことでごちよごちよずっと出てきているもので、苦情の電話ばかりしてきるのでね、あれですけど。ちょっとその辺のところを皆さんと一緒に、ね、少し沼間のPRを含めて、少し歴史の見返りをちょっとね、皆さんにこういうところもあるんだよということの紹介もしたいな。

【市民】 自然の回廊とは違ったね、景観デザイン。

【平井市長】 はい、ありがとうございます。あ、後ろの女性の方、どうぞ。

【市民】 鈴木と申します。今日はこちらにいらして…市長さんがいらして下さって楽しみにして待っておりました。時間がないので、唐突ですが申し上げますが、逗子市にすぐやる課などをお作りになったらいかがでございましょうか。実は道路がひび割れまして、私がすぐに逗子市に電話しました。というのは、幼稚園のバスが我が家の前を最近通るようになったのです。もしもこのひび割れが、多方に入っておりますので、子どもたちに事故があってはいけないと思いま

して、私はすぐやる課お願いしますと逗子に電話いたしました。そうしましたら、その日に工事の方が見えてくださいました。うれしいことでした。ところが、それから1年たちましたでしょうか、まだ直っておりません（笑い）。直っていません。これを申し上げるのは、我が家の周りまで崩れかけてきましたので、今年はどうぞよろしく願いいたします。

それと同時に、将来の夢ですが、アーデンヒルを落ち葉の清掃車が走るのを願っております。毎日清掃で、道路掃除で私は1時間ほど費やしております。よろしく願いいたします。主婦たちの悩みであると思います。よろしく願いいたします。

【平井市長】 お電話いただいたのは、多分まちかどホットラインがつながったのか、ちょっとわかりませんが。すぐやる課があるわけではありません。基本的には連絡があったらちゃんと必要な部署につないで、すぐやりなさいというネットワークになっています。ただ、工事できてないんですね。ちょっと個別の職員に言ってください。どの辺のことなのか。落ち葉のね、清掃車、これはもう地域の人でも一生懸命やっていたいでいるので、行政は行政としてやっていますけども、なかなかすべては手が回りません。これは本当に行政がやるべきことと、地域の皆さんと協力してやるべきところと、協力、役割分担を決めてやっていければなど、そんなように思っています。

ほかにはいかがでございましょう。はい、どうぞ。

【市民】 私は逗子に住んで40年、今この沼間が逗子のどのあたりにあるか、私はわからん。ここまで話を聞くと、逗子、こんなちっぽけな、ね、ここの中でがちゃがちゃがちゃがちゃ言っているけども、今、一般道路から逗子に向かって来る時に、逗子はこっちだよという行き先表示はたった1カ所しかない。あとはもう全然、逗子なんてどこにあるか。それから…。

【平井市長】 どちらにお住まいでしょうか。お住まいはどちらでしょうか。

【市民】 ハイランド。それから、土曜・日曜になると、横横から朝比奈の峠を越えて、ハイランドの中を縦貫する道路、そこへまあ田舎っぺは車をずっと並べて…

【平井市長】 渋滞していますね、あそこ本当に。

【市民】 土曜・日曜来てごらんない。

【平井市長】 私ももちろん承知しております。

【市民】 彼らは逗子にお金は落っこたさない（笑い）。鎌倉、それから三崎のほうへ行っちゃ。それで帰りは、はい、さよならと、シャーッとこう行って、逗子に残るのは、ね、排気ガスだけなんだよ。だからハイランドの入り口、あそこはだね、今、市の道になっているけども、ハ

イランドの入り口に入場料取ればいい（笑い）。

【平井市長】 なかなかそれはちょっと難しいご意見でございまして…。

【市民】 そういうことで、一度発表しに来られなさい。どうですか。発表しなきゃ何にもならない。くだらない車グチャグチャグチャグチャ、まちの中は余計ですよ。もう本当に排気ガスで、ね…。

【平井市長】 あそこのね、ハイランドのね、あそこのバス通りですよ。

【市民】 その道路を掃除するのは我々の市民税でしょう。

【平井市長】 もちろんです。

【市民】 そこをだね、もっと拒否をしなきゃだめだよ。こんな小さいので、ねえ、何々、何々と、そんなちっぽけな町にがちゃがちゃ言ったところで、大したことはない。

【市民】 これは沼間のことで今やっているんですから、沼間の人の話を聞いてくださいよ。

【平井市長】 そうですね、ご意見は受けとめました。はい、いいですよ。はい、もうあまり時間がないので。はい、じゃあ、後ろの…どうぞ。

【市民】 私も他地区なんですけども、逗子1丁目自治会のイイヤマと申します。ちょっとお伺いしたいんですが、私、避難所もやっているんですけども、今回の3月11日の震災のときに沼間の避難所が立ち上がったんですかね。

【平井市長】 沼間は小学校が避難所になってないです。避難所、地震のときには立ち上がってないです。

【市民】 わかりました。はい。

【平井市長】 いいですか。じゃあ、先に手を挙げていただいた男性の方。

【市民】 お願いとね、質問をしたいんですけど。今日ですね、私は輪番でね、会長をやっているんですけども、小さな自治会なんです。したがってね、こういう会へ出ますとね、聞くことが全部初めての話でしてね、今までのその会長からはね、こういうものが、引き継ぎみたいのも一切ないし、あるのは会計の支出だけでほか何もないです。例えば今日の今ですね、これ僕も会長になって2回目なんです、出てくるのが。一体ね、ここに出席されている方がね、どういう地区の方がね、どういう方が参加されているのか、全然ね、わからないんですよ。それから、今、地区の連合会を作ろうとしている。これも名前がね、沼間地区と言ったり、沼間小学校区と言ったり、沼間小学校地域と言ったり、名前も、仮称だからこれしょうがない。それとね、せっかくこれができたら、仮称であってもわかりやすく説明して欲しいというのが一つと、一体ね、



【市民】 桜山の子も沼間小学校に入学している。

【平井市長】 そうなんです。桜山の4丁目、5丁目。

【市民】 福祉会館のあるところ。

【平井市長】 あと、ここの記録は、全部市民協働課の方がまとめていきますので、これは何、ホームページで見れるの。市のホームページでは見れるようになっています。ただ、回覧みたいな形では特にその都度その都度しておりませんので、もしごらんになりたければ、できた後におっしゃっていただければ市民交流センターでお渡しできると思います。（「どこですか」の声あり）文化プラザにある市民交流センター、図書館の隣の施設ですね。そこに市民交流センターで市民協働課がつくった議事録は、お渡しすることができるし、ホームページでもこちらから見に行くことができます。

そろそろ12時なんですけど、じゃあ、お二方。どうぞ。

【市民】 桜山2丁目のなかと申します。今ちょっとお話出ました逗子小避難所運営会、私この一応役員しているんですけど。この間の3月11日の震災のときにあそこが初めてですかね、開設されまして、1,000人の方を1泊利用していただいて、当日、平日昼間でしたので、市の職員、それから小学校の先生方、あと若いボランティアの方がみんな一生懸命頑張って成功裏に終わったと思うんですけど、やってみた経験からですね、前から言ってるんですけど、避難所運営マニュアルというのを市民の生命を守るという市の責任の観点から、多くのよその自治体でも既に作っておりますので、早く整備してつくっていただきたいという要望です。本来、避難所として備えておくべき備品のリストだとかですね、避難所運営の総括責任者は誰なのかとかですね、同じ運営委員への連絡方法だとかですね、そういったことも含めて早めに整備していただきたいと要望します。

【平井市長】 はい、ありがとうございます。逗子小学校は今回、3月11日に1,000人を超える人に避難所として利用されました。そこでいろんな課題が出てきておりますので、今、行政の中でもそれを整理して、すぐにできること、ちょっと中期的に取り組むことというのを今、仕分けをして取り組んでいます。ですから、沼間地域でも避難所訓練をね、されると思いますけれども、今度7月の「広報ずし」と一緒に津波ハザードマップの修正版を全戸に配ります。そこには40本ぐらいの避難経路、津波がもしあった時にどういう経路で逃げ道があるかというのもそこにはちゃんと記して、あと標高もちゃんと示しますので、それをぜひ確認いただいて、まずご自分の家からどういう避難経路で行くのか。避難所運営訓練をする時も、ぜひ、じゃあ皆さんで集まった



時に、どうやって自分の身を守るかということもね、議論していただいて、地域の中での色々な確認をいただきたいし、いわゆる要援護者と言ってますけど、災害弱者ですよ。高齢の方、障がいのある方、地域に色々な方がいらっしゃって、それをどう地域の中でお互いを守るかというのも、本当にこれから大きな課題です。行政のほうでもリストをね、作ったりして、自治会の方に管理していただいたりということをしていますけども、本当に集まった時には、行政は、今回の東北なんかを見ても行政そのものの機能が壊滅的にやられてしまって、町長がね、亡くなった自治体もありますけども、その時に住民の中でどうやってお互いに支え合う、共助とさっきおっしゃっていただきましたけども、そういった取り組みというのが、これが本当に重要になっているなというふうに思います。

今日本当に、9つの団体の皆さんからの発表をいただいて駆け足でやりましたけども、これはただのスタートの一つにすぎませんので、沼間地域連合組織が立ち上がっているのです、本当にいろんな課題を皆さんと出し合って、これから色々な取り組みをさらに深めていきたいなと思っています。

小坪の地域ではですね、本当に積極的で、自分たちで計画を作ろうというところまで盛り上がっていて、私もお会いするたびに、ぜひ市長、また話し合いの場を持ってくれと、こう言われております。ぜひそれぞれの地域で自らね、課題をまずは整理して、その中で何ができるかということもね、皆さんで話し合いながら一步一步前進していきたいなと、そんなふうに思っております。

もうお一方いらっしゃいましたよね。すいません。じゃあ、最後に。

【市民】 沼間3丁目自治会で防災のほうを担当しているジズと申します。今、お話にありました災害時の要援護者のことなんですけどもね、自治体の防災担当としては、市の方で手挙げ方式で多分要援護者のリストを作られてると思うんですけども、そのリストが今、各自治会の会長さんですか、金庫の中にしまわれていると思うんですね。それはどういうつもりで金庫の中にしまわれているのか。いざというときに金庫を開けてそれを利用するのか、その辺がちょっとすごく疑問でありまして、私とすればリスト、個人情報のあるんですけども、それではいざの時に役に立たないんじゃないかと思っていて、それをぜひ考えて、助けられる形の利用方法にしていきたいと思ってるんですね。市としてはどういうふうにお考えなのか。それとも、各自治会で、お互いさま活動の中で独自に作るべきものなのか、その辺をちょっとお伺いしたいなと。

【平井市長】 大変重要な課題を指摘していただきました。これは本当に今、各自治会の皆さんに管理をしていただいているというところで、金庫にね、保管ということもされていると思うんですけども、この利用をどうするかというのは実はまだまだ、どこの自治体も実は苦勞しています。個人情報保護のね、観点で、ほかに漏れたらね、また色々とトラブルのもとだということで。ただ、でも、これはほかの自治体で何かそういうルールを作った、条例を制定してるという例もあるようなので、今、市の方でもちょっとどうやってうまく活用するかということは今研究し始めました。ですので、少しその辺の材料を皆さんにお示ししながら、どうやればそういった名簿が適切に管理しながら利用できるかということと一緒に作っていききたいなと思っています。今はまだ、回答というのは、はっきりしたものはできないというのが現実です。

ありがとうございました。それでは、もうお時間も過ぎましたので、先ほど若干まとめをいたしましたけれども、今日お集まりいただいたことを契機にして、また今度は何カ月か後には池子の地域でやりたいと思います。そして沼間の地域は連合会をね、発足をして、ますます色々な活動が横につながって活発になっていくなど期待をしておりますので、どうぞ、次のステップでは少し個別のね、もうちょっと突っ込んだテーマに絞ったトークをね、位置づけたいなと、そんなふうにあります。

今日は本当に貴重な時間をいただきまして、これだけの多くの方に集まっていたいて、本当にありがとうございました。どうぞこれからも力を合わせて、この逗子のまち、もっともっと住みやすい、いいまちにしていきたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本市民協働課長）】 はい、どうもありがとうございました。本日の予定は以上となります。報告者の皆様、ご来場の皆様、本当にどうもありがとうございました。

最後、ご案内とお願いです。次回のまちづくりトークは池子の前に7月2日、チラシがお手元にあろうかと思いますが、7月2日に第一運動公園で「子どもの遊び」ということでテーマを決めて行います。第一運動公園の再整備のこともお話をします。ぜひご参加ください。

2つ目です。7月12日、自治会・町内会の意見交換会の第2回ということで、また今日開いてのすぐなんですけれども、行います。群馬県の沼田市から自治会の役員の方が逗子のほうに見えられて、ぜひ意見交換をしたいとおっしゃっていますので、その中で活動のヒントなどを見つけていただけたらなと思います。

あと、今日のワークショップで使いました地域ではこんなことになって欲しいというワークシートを、もしよろしければ私どもの参考にさせていただきたいので、アンケートと一緒に出口の

ほうでご提出をお願いできますでしょうか。あと、名刺のほうも、もし構わないよという方で構いません。ちょっと市のほうに参考とさせていただきたいので、よろしければご提供ください。これは強制ではございませんので、お持ち帰りいただいても結構ですが、もしよろしければお願いいたします。

はい、では、以上となります。本日はどうもありがとうございました。（拍手）